

第112期報告書

TOYOTAレポート

2015年4月1日から2015年9月30日まで



TOYOTA



株主の皆様におかれましては、平素より当社への格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。当社は、株主の皆様のご期待に応え、これからもトヨタ株を長く保有していただくため、持続的成長に向けたチャレンジを続けていきたいと思っております。そして、「もっといいクルマづくり」を通じて、ステークホルダーの皆様に応援いただけるトヨタを目指してまいります。

今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年11月
取締役社長

豊田 章男

Q1. 今期の業績について

A1. 販売の状況については、北米では堅調に増加したものの、日本やアジア、中近東などで減少したことなどにより、連結販売台数は前年同期に比べ、19万9千台の減少となる427万8千台となりました。収益の状況については、為替変動の影響に加え、原価改善などの収益改善活動が進展したことにより、当前半期の連結営業利益は2,314億円増益の1兆5,834億円となり、連結純利益は1,312億円増益の1兆2,581億円となりました。

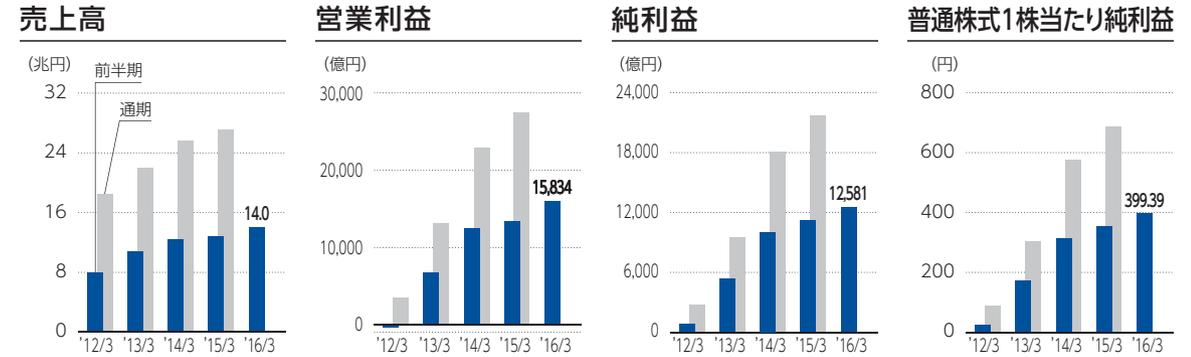
Q2. 「もっといいクルマづくり」に向けた取り組みについて

A2. 革新的なモノづくりの技術・工法であるTNGA（トヨタ・ニュー・グローバル・アーキテクチャー）に基づく商品開発や、稼働率を高め、モデル切替に柔軟に対応できる競争力のある工場づくりと、こうした活動を支える人材育成の強化を着実に進めています。そして、これらの取り組みを通じて開発・生産された新型車を、12月発売のプリウスを筆頭に、グローバルに展開してまいります。

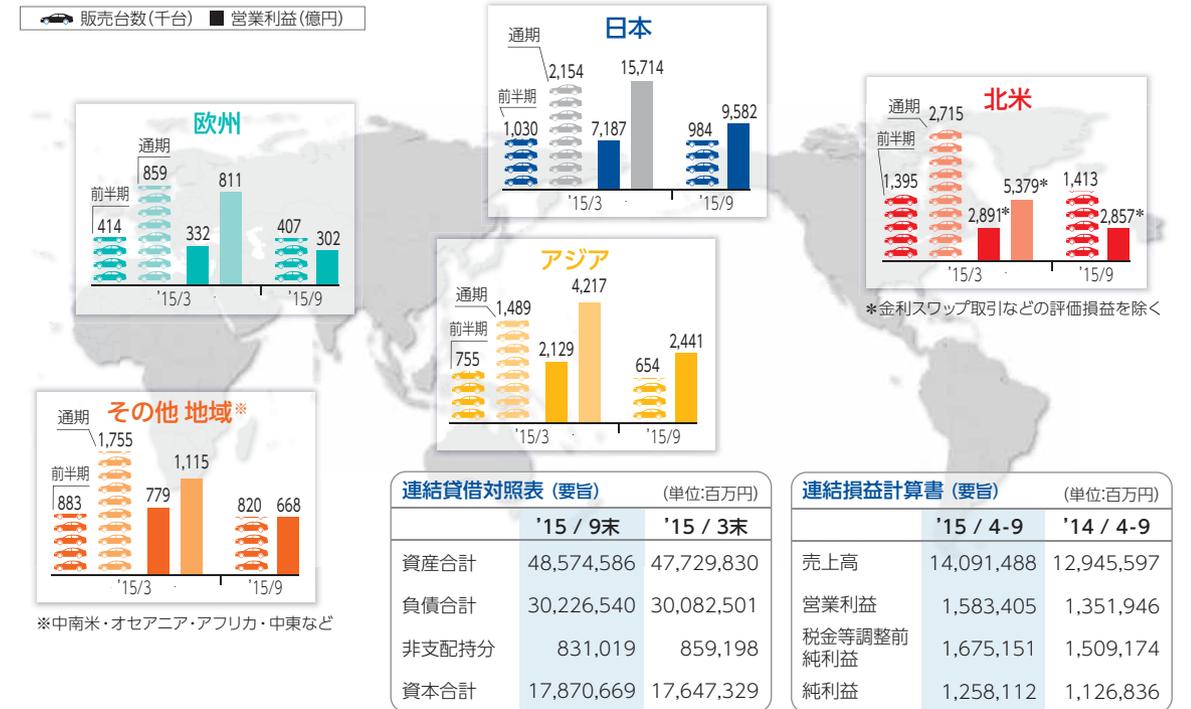
Q3. 持続的成長に向けたチャレンジとは？

A3. 誰もが安全・安心で快適に移動できるモビリティ社会の実現に向けて、当社ではさまざまな「チャレンジ」に取り組んでいます。ITS（高度道路交通システム）の分野においては、クルマとクルマ、クルマとインフラの双方向通信により安全運転を支援し、交通事故の低減に貢献する運転支援システム（ITS Connect）を実現しました。また、自動運転技術の分野では、2020年頃の実用化を目指し開発を進めており、車載システムが適切に周辺環境を認知・判断・操作し、通常走行から専用道路における合流、レーンチェンジや車線・車間維持のデモ走行を実施しています。人工知能の分野でも、運転支援やロボット技術、さらには社会活動全般への貢献が期待されていることから、研究開発の強化のため、米国の2大学と連携研究センターを設立します。なお、これらクルマづくりや次世代技術のための研究開発資金の調達を目的に、当社は中長期の保有を前提とした議決権付き種類株式であるAA型種類株式を発行しました。先行先端技術の開発等により競争力を強化し、持続的成長を実現することで、株主を含めすべてのステークホルダーの皆様のご期待に応えてまいります。

連結業績の推移



地域別販売台数および営業利益／連結貸借対照表／連結損益計算書



持続的成長を支える
「競争力のある工場」づくりを推進

メキシコ新工場・中国生産ライン新設において、「シンプル&スリム」「フレキシブル」をキーワードに、伸縮自在ライン、床置き可能な小型設備のほか、コンパクトな塗装ブースなど、革新的な生産技術を可能な限り盛り込むと同時に、より安全で環境に優しい工場づくりに取り組んでいきます。



「もっといいクルマづくり」のための
北米走破プロジェクト開始



トヨタの従業員が北米の道を走破するプロジェクトをスタートさせました。北米事業体の車両開発メンバーを含む140名の従業員が、6月24日から約半年間にわたり、北米大陸の厳しい道を走行する中で、テストコースでは得ることのできない「クルマづくりに生きるヒントの数々」を現地の道から学んでいきます。



新型シエンタを発売

フルモデルチェンジしたシエンタは、広く世代を超えてお客様のさまざまなライフスタイルをサポートする「ユニバーサルでクールなトヨタ最小ミニバン」として開発されました。スポーティーなエクステリアと機能性・質感を両立させたインテリアを採用するとともに、低床フラットフロアの導入により、3列目までゆとりある室内空間と、誰にでも優しい乗降性を実現しました。



技能五輪国際大会で
金メダル2個を獲得

ブラジルのサンパウロで開催された第43回技能五輪国際大会に5職種5人の選手が出場し、2名が金メダル、1名が銀メダルを獲得しました。



人工知能研究開発のための
連携研究センターを設立



米国マサチューセッツ工科大学およびスタンフォード大学と人工知能に関する研究で連携することに合意しました。両連携研究センターではクルマやロボットへの応用を目指し、さまざまな環境における物体の認識や高度な状況判断、人と機械との安全な相互強調などを実現するための研究を推進します。

4月

5月

6月

7月

8月

9月

トヨタ・モビリティ基金 タイでの
パイロットプログラムを選定

トヨタ・モビリティ基金(TMF)が行う最初の助成案件とした同プログラムは、バンコク市でもとりわけ渋滞問題が深刻なサトン地区を対象に、チュラロンコン大学と協働して、包括的な交通・渋滞管理プロジェクトに着手します。このプログラムを通じ、環境に優しく安全で快適な「真のモビリティ社会」の実現に向け、TMFは取り組みを進めていきます。

マツダと業務提携に向け基本合意

「クルマが持つ魅力をさらに高めていく」ことを念頭に、両社の経営資源の活用や、商品・技術の補完など、相互にシナジー効果を発揮しうる、継続性のある協力関係の構築に向け、両社は覚書に調印しました。今後、互いの強みを活かせる具体的な業務提携の内容の合意を目指します。これまでのハイブリッドシステム技術のライセンス供与や、マツダのメキシコ工場におけるトヨタ車生産などに加え、従来の提携の枠組みを超えて「クルマの新たな価値創造」に向けた中長期的な相互協力に取り組めます。



ビーチバレーボール部を設立

企業スポーツを通じた社内一体感の向上や、地域と密着したスポーツ振興の一環として、新たにビーチバレーボール部を設立しました。ゼネラルマネージャーには日本のビーチバレーボールの先駆者である川合俊一氏を迎え、現在の日本ビーチバレーボール界をリードする選手とともにチームを発足させ、今後は将来のトップ選手育成にも積極的に取り組んでいきます。



LEXUS 「LX」を新発売



SUVラインナップのフラッグシップモデルとなるLX570は、力強さとラグジュアリーが融合した内外装に加え、トルクフルなV8・5.7Lエンジンやドライブモードセレクトの採用など、オンロードからオフロードまで安定したドライビングを実現しました。

4代目 新型プリウス発売



今年12月に発売予定の新型プリウスは、優れた燃費性能に加え、先進の安全性能、ワクワクドキキを感じさせる運転の楽しさを念頭に開発されました。加えてTNGA(トヨタ・ニュー・グローバル・アーキテクチャー)によるクルマづくりの構造改革により、40km/L(一部グレード)の低燃費の実現とともに、「カッコ良さを際立たせる低重心スタイル」や「走りの良さ・乗り心地の良さ・静かさ」といったさまざまな基本性能の大幅向上を目指しました。これらの実現により、新型プリウスは、クルマ本来の楽しさをお届けするために、そして、人や社会に優しい存在として、ハイブリッドカーの新たな先駆けとなるために生まれ変わります。

特徴

①低重心パッケージによる走りの良さを訴求するスタイル、先進的で温かみを持たせたインテリア



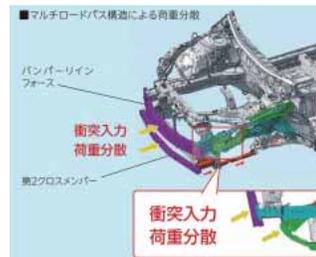
②目標燃費40km/L(一部グレード)を実現するために進化したハイブリッドシステム



エンジンは排気量1.8Lの改良型2ZR-FXEで、クラストップレベルの最大熱効率40%を実現

低損失素子の採用による約20%の損失低減を実現するとともに、小型化を実現

③進化した安全性能と、いつまでも乗り続けたい「走りの楽しさ・乗り心地の良さ・静かさ」



全方位コンパティビリティボディ構造

④「先駆け」の名を持つプリウスにふさわしい充実の先進装備



Toyota Safety Sense P



基本性能が大幅に向上したハイブリッドシステム



新剛性骨格ボディ

「トヨタ親子学習プログラム」への取り組み



北米トヨタが社会貢献活動として取り組んでいる当プログラムは、移民親子などを対象とした識字プログラムです。親子で英語を学ぶことで識字能力を飛躍的に高め、親子の教育および経済的な向上を促すことを目的に1991年より開始されました。現在では全米31州、56都市、276拠点で開催しています。9月には社長の豊田がラスベガスの学校を訪問し、親子でサボテンを植える作業などを通して、楽しく英語の読み書きを学ぶ様子を見学しました。

「MIRAIへつなぐ『夢の教室』in 豊田」の開催

日本サッカー協会(JFA)と豊田市が昨年10月に協定を締結した「JFAこころのプロジェクト」に中京大学と当社が支援団体として加わり、全国初の4者協働の当プロジェクトを開始しました。今年度は豊田市内の22小学校51クラスで授業をスタート。当社に在籍するアスリートや、JFAから派遣されるアスリートらが「夢先生」を務め、夢を追いかける過程を語り合うことで、夢を持つことの素晴らしさ、努力することの大切さを児童たちに伝えます。また、当社からも、人材育成の一環として、若手従業員をボランティアスタッフとして派遣し、授業をサポートしています。



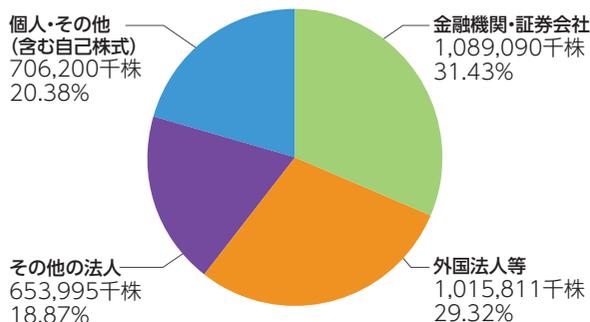
株式状況 (2015年9月30日現在)

発行済株式総数 3,465,097,492株
(注)AA型種類株式を含みます。

株主数 613,813名

株式分布状況

持株数ベース



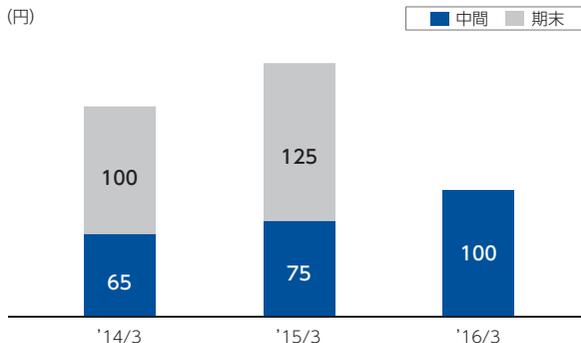
(注)比率は発行済株式総数に対する持株比率です。

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	発行済株式総数に対する持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	360,669	10.41
株式会社豊田自動織機	224,515	6.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	161,711	4.67
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー (常任代理人 (株)みずほ銀行決済営業部)	138,880	4.01
日本生命保険相互会社	120,579	3.48
株式会社デンソー	82,533	2.38
ザバンク オブ ニューヨーク メロン アズ デポジタリ バンク フォー デポジタリ レシート ホルダーズ	76,712	2.21
ジェーピー モルガン チェース バンク (常任代理人 (株)みずほ銀行決済営業部)	68,873	1.99
資産管理サービス信託銀行株式会社	66,857	1.93
三井住友海上火災保険株式会社	63,463	1.83
計	1,364,796	39.39

(注)上記のほか、当社が所有している自己株式304,236千株があります。

普通株式1株当たり配当金



(注)第1回AA型種類株式の中間配当は1株当たり26円となります。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
配当金支払株主 確定日	期末配当:3月31日 中間配当:9月30日
上場証券取引所	(国内)東京・名古屋・福岡・札幌 (海外)ニューヨーク・ロンドン
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座管理機関 (同連絡先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 (〒137-8081) 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 (0120) 232-711 (通話料無料)

お知らせ

住所変更・単元未満株式の買取請求等のお問い合わせ先

- ①証券会社に口座を開設されている株主様
お取引先の証券会社等にお問い合わせください。
- ②証券会社に口座がなく、特別口座に登録されている株主様
特別口座を開設している三菱UFJ信託銀行株式会社まで
お問い合わせください。